

# 平成26年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成26年12月24日〕  
十勝地区農業協同組合長会  
十勝農業協同組合連合会  
十勝総合振興局産業振興部

## 1 考え方

本集計は、平成26年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金等を含む。

なお、本集計には、産地交付金、農業共済金支払額は含まない。

## 2 平成26年の概要

農協取扱高は、耕種部門、畜産部門  
双方が増収したことにより  
2,798億円（前年比105%）

### ◇耕種部門取扱高◇1,225億円（対前年比106%〔構成比43.8%〕）

本年は、4月下旬にてんさいが強風と降霜により被害を受けたほか、4月から5月上旬にかけて小雨の影響があったものの、生育は概ね順調に推移し、収量を確保。

- 小麦は、収量は前年を下回ったが、製品歩留まりが前年を上回る状況であったことから、前年比2%増。
- 豆類は、作付面積が前年を上回ったほか、生育も順調に推移し、前年を上回る収量を確保したことから、前年比14%増。
- ばれいしょは、春先の小雨や8月の降雨等があったものの、前年以上の収量を確保したことから、前年比7%増。
- てんさいは、作付面積が前年を下回っているものの、糖度が上昇し、また、経営所得安定対策における単価の改定と基準糖度の引き下げがあったことから、前年比9%増。
- 野菜は、多くの品目で前年を上回る作柄となったものの、出荷量の増大に伴う市況低迷から前年を下回る単価での取引が多くなったことなどから、前年比±0。

### ◇畜産部門取扱高◇1,573億円（対前年比105%〔構成比56.2%〕）

- 酪農は、前年割れで推移していた生乳生産も7月以降徐々に回復したことから、年間では前年並みを確保し、また、乳価の上昇などから、前年比3%の増。
- 肉用牛は、と畜頭数はほぼ横ばい、家畜市場での肉専用種の取引頭数は減少したものの、昨年回復した枝肉価格が堅調に推移するとともに、素牛取引価格が増加したことなどから、前年比8%増。

## 3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	平成26年		平成25年		対前年比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	取扱高	比率	
耕種	麦類	263	9.4	259	9.7	4	102
	雑穀・豆類	194	6.9	170	6.4	24	114
	ばれいしょ	268	9.6	250	9.4	18	107
	てんさい	280	10.0	258	9.7	22	109
	野菜	213	7.6	213	8.0	0	100
	その他	7	0.3	6	0.2	1	117
	小計	1,225	43.8	1,156	43.5	69	106
畜産	酪農	1,036	37.0	1,007	37.9	29	103
	生乳	911	32.6	888	33.4	23	103
	肉用牛	499	17.8	463	17.4	36	108
	豚・鶏	16	0.6	14	0.5	2	114
	その他	22	0.8	18	0.7	4	122
小計	1,573	56.2	1,502	56.5	71	105	
総合計	2,798	100.0	2,658	100.0	140	105	

※ 取扱高は税抜き。